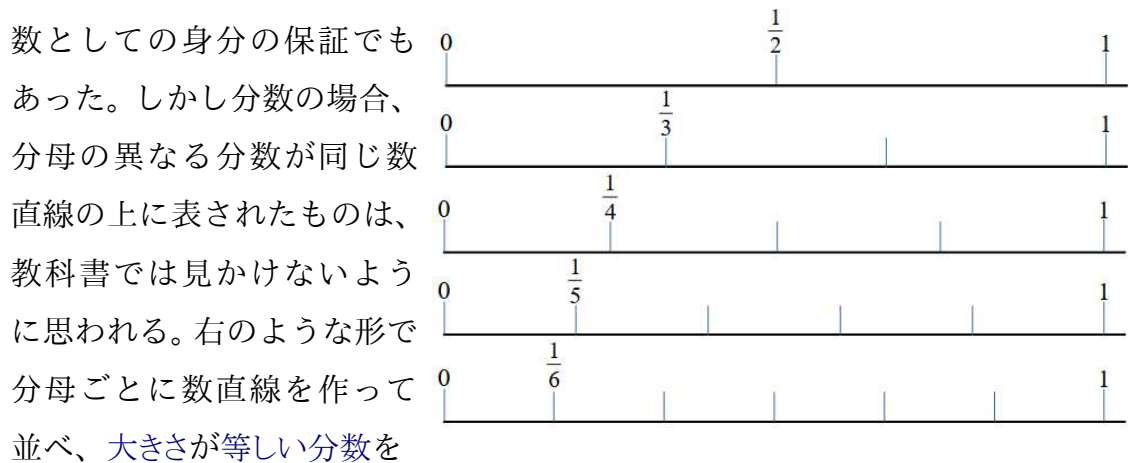


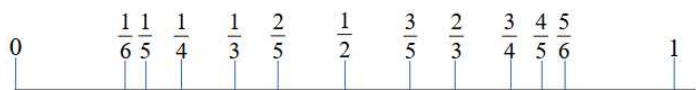
分数は数直線上に「大集合」しないのか

令和7年度全国学力・学習状況調査算数の問題3(3)で、久しぶりに分数を数直線と関連付ける問題が出された。解説資料を見ると、こうした関連付けが前回出題されたのは平成19年度まで遡るようである。また、分数の基本的な理解にすら問題があるのではないかとの指摘が今もされていることを考えると、こうした出題は意味のあることとも思われる。

他方で、分数と数直線との関連付けを考えると、整数や小数の場合と決定的に異なる点がある。小数の場合には現れる整数や小数は全て1本の数直線の上に位置付けられていく。ある意味でそうやって数直線の上に“住所”あることが



見つけることはあるものの、右のように、1本の数直線の上に、学習してきた分数が一緒に位置付けられることは



ほぼない。同じ数直線上で一堂に会することがないにも関わらず、それらを同じ数だと考えることが求められている。

確かに分母が異なる分数を同じ数直線上に表そうとすると、分割の仕方が難しくなるのでやりにくいのも確かであろう。ただ逆に言えば、それは分数を分割の操作から親離れさせてあげられないということであり、分数を数として見ることを阻害している可能性もある。

分数を数として、同じ数直線の上に「大集合」してもらうことはできないのであろうか。

【算数・数学教育におけるIAQに戻る】